

長崎の原爆で終わった抑留

——イギリス人修道女の戦争体験記

マリー=エマニュエル・グレゴリー 著／大橋尚泰 訳・解説

本体 2,500 円+税／四六判 並製／ISBN978-4-86722-110-5 C0036 8月下旬発送予定



戦時中、各地に設置された敵国民間人抑留所の
実態を明らかにする貴重な歴史証言！

第二次世界大戦中に長崎の敵国民間人向けの抑留所に収容されていたときに原爆を体験したイギリス人カトリック修道女が、フランス語で書いた回想録（1947年）の全訳に、訳者による解説「敵国民間人の抑留とマリー=エマニュエル修道女」を付し、日本のいわゆる「民間人収容所」の実態、歴史的位置づけを他国と比較しながら検証した貴重書。

日本でとらわれの身となったスヴェールの聖ベルナデッタ修道会の一修道女 ——その原爆による解放

- 第1章 香里にて、1940～42年
- 第2章 神戸にて、1942～44年
- 第3章 長崎にて、1944～45年
- 第4章 帰国、1945～46年

解説 敵国民間人の抑留とマリー=エマニュエル修道女

前編 太平洋戦争中の敵国民間人の抑留について
抑留の概略／「抑留」の定義と強制疎開／アメリカでの日系人抑留との比較／歴史叙述の偏りと虚偽の証言

後編 マリー=エマニュエル修道女の軌跡
戸籍名と修道名／スヴェール愛徳修道会と聖母女学院／来日と神戸での抑留／長崎にて／もう一冊のフランス語の日本抑留記／帰国とその後／本書の位置づけ



《訳・解説者紹介》大橋尚泰（おおはし・なおやす）

1967年生まれ。早稲田大学仏文科卒。東京都立大学大学院仏文研究科修士課程中退。現フランス語翻訳者。

著書『ミニマムで学ぶフランス語のことわざ』（2017年、クレス出版）、『フランス人の第一次世界大戦——戦時下の手紙は語る』（2018年、えにし書房）。訳書『1932年の大日本帝国——あるフランス人記者の記録』（アンドレ・ヴィオリス著、2020年、草思社）。解説に、『復刻 アラス戦線へ——第一次世界大戦の日本人カナダ義勇兵』（諸岡幸磨著、解説部分担当、2018年、えにし書房）がある。

直取引代行
トランスビュー

えにし書房の商品は、トランスビューの取扱で納品します。直接取引の条件はトランスビューの商品とすべて同じ（返品随時可）です。

取次ルートの場合は八木書店経由（返品可）です。トランスビューとお取引がない書店様は小社にご連絡ください。ご注文は1冊からお気軽に！

貴店名

ご担当

『長崎の原爆で
終わった抑留』

冊